

## 校区観光化の導入を通して知の組織化を図り、成就感をもたせる問題解決型学習の実践的研究

豊瀬仁須 尾垣有三 永富弘子 福本信太郎 大山 英則 藤田 まり子  
井上修志 砂本和彰 原田由美 森靖恵 蝶々 克己

### 要約

金川中学校では、過去 10 年以上にわたって「地域調べ学習」を実施してきた。この学習は「地域のことを知る」という観点からは成果が見られたものの、生徒個人の地域についての知識を豊富にするという成果にとどまっていた。地域調べ学習を、将来に向けて深化・充実させるためには、調べたことを外部に向けて発信する必要があると考えられていた。

また、本校では、株式会社組織を模した組織「プロジェクト金川」を組織し、リサイクル活動に取り組んできた。これは、商法に則った模擬株式会社を組織して学習を行うもので、廃品回収をし、それをリサイクル業者に納入して利潤を上げてきた。(利潤はすべてユニセフに寄付)この学習では、事業計画書を生徒が作成し、取締役会及び各部署の構成員は、すべて生徒であった。この学習は、当初、さまざまな課題を解決する必要に迫られ、生徒の問題解決能力を高めるために、非常に効果的であったが、学習の3年目には、生徒達が解決すべき課題がほとんどなくなってしまい、前年度の事業計画書を修正するにとどまる学習になってしまった。生徒の問題解決能力を高めるためには、新たに生徒が課題を設定して学習に取り組めるテーマが必要であった。

地域調べ学習の成果を発信し、生徒の問題解決能力を高めることができるテーマを設定したいと考え本研究テーマを設定した。研究の目的は、「中学校の総合的な学習の時間に於ける校区観光化の導入を通して、知の組織化を図り、成就感をもたせる問題解決型学習の指導のあり方について究明する。」である。

本研究は、中学校 2 年生の総合的な学習の時間に行われるものである。生徒の解決すべき問題は、校区への観光目的の来訪者数の増加である。この問題を解決するために、本研究では、知の祖機器化を図るために株式会社組織を模した組織形態によって学習を進めた。これは、生と一人一人の責任を明確にし、なおかつ互いに協力し合って問題を解決するようにさせるためである。実際の活動としては、Web ページ作成、観光ガイド、ウォーキング大会などの学習活動を生徒たちは実施した。また、これらの活動を行うにあたって、ゲストティーチャーを招き、ゲストティーチャーによる知の組織化を図った。

作成した Web ページや実施した観光ガイドキャンペーンやウォーキング大会の成功は、そうした知の組織化の成果であるといえる。

学習活動の前後に行った SWOT 分析からは、生徒たちの問題把握能力の向上が認められた。問題をある程度解決できているとあわせて考えると、生徒たちの問題解決能力は向上したといえる。

観光目的の来訪者数に対する生徒たちの自己評価からは、生徒たちが成就感を得ていることが分かる。

以上から、知の組織化をはかり、生徒に成就感をもたせる問題解決型学習の指導の一方法を提案できたものとする。

## 1 主題の意味

### 1.1 校区観光化とは

校区観光化とは、本校校区を観光目的に対応するようにすることである。本研究では、校区観光化プロジェクト「Youkoso!Kanagawa」(以下「Youkoso!Kanagawa」)を2年生の総合的な時間に於いて行うものである。

### 1.2 知の組織化とは

知の組織化とは、個人の知を適切にグループ分けし体系的に構造化することである。

## 2 問題点の所在

田川市立金川中学校(以下「本校」)では、過去10年以上にわたって「地域調べ学習」を実施してきた。この学習は「地域のことを知る」という観点からは成果が見られたものの、生徒個人の地域についての知識を豊富にするという成果にとどまっていた。地域調べ学習を、将来に向けて深化・充実させるためには、調べたことを外部に向けて発信する必要があると考えられていた。

また、本校では、株式会社組織を模した組織(以下「模擬株式会社」)「プロジェクト金川」を組織し、リサイクル活動に取り組んできた。これは、商法に則った模擬株式会社を組織して学習を行うもので、廃品回収をし、それをリサイクル業者に納入して利潤を上げてきた。(利潤はすべてユニセフに寄付した。)この学習では、事業計画書を生徒が作成し、取締役会及び各部署の構成員は、すべて生徒であった。この学習は、当初、さまざまな課題を解決する必要に迫られ、生徒の問題解決能力を高めるために、非常に効果的であったが、学習の3年目には、生徒達が解決すべき課題がほとんどなくなってしまい、前年度の事業計画書を修正するにとどまる学習になってしまった。生徒の問題解決能力を高めるためには、新たに生徒が課題を設定して学習に取り組めるテーマが必要であった。

Youkoso!Kanagawa は、地域調べ学習と模擬株式会社「プロジェクト金川」の問題点を克服するために平成18年度から始めた学習である。校区に観光目的の来訪者を招くことで、校区についての知識を外部に発信し、来訪者数という数値目標を設定する学習である。

## 3 研究の目的

中学校の総合的な学習の時間に於ける校区観光化の導入を通して、知の組織化を図り、成就感をもたせる問題解決型学習の指導のあり方について究明する。

## 4 研究の仮説

中学校の総合的な学習の時間に於いて、校区観光化を導入すれば、知の組織化を図り、成就感をもたせる問題解決型学習の指導のあり方の指導のあり方が明らかになるであろう。

## 5 理論研究

### 5.1 情報科教育への位置づけ

本研究は中学校での研究であるが「高等学校学習指導要領」(文部科学省、平成11年3月)「第10節 情報」に鑑みて行うものである。特に、「情報A」の内容、「問題解決を効果的に行うためには、目的に応じた解決手順の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。」(問題解決の工夫)及び、「情報を的確に伝達するためには、伝達内容に適した提示方法の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。」(情報伝達の工夫)に重点を置いた学習をすることを通して、目標の「情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」を目指すものである。

### 5.2 観光立国行動計画への位置づけ

平成15年7月には観光立国関係閣僚会議から、「観光立国行動計画～『住んでよし、訪れてよしの国づくり』戦略行動計画～」が発表されました。平成20年10月1日に観光庁が発足し、我が国の「観光立国」

の推進体制が強化されています。

「観光立国推進基本法」に基づいて策定された「観光立国推進基本計画」では、四つの基本的な方針が挙げられています。

国民の国内旅行及び外国人の訪日旅行を拡大するとともに国民の海外旅行を発展

将来にわたる豊かな国民生活の実現のため観光の持続的な発展を推進

地域住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会を実現

国際社会における名誉ある地位の確立のため平和国家日本のソフトパワーの強化に貢献

本研究は、観光立国行動計画に則して行うものである。

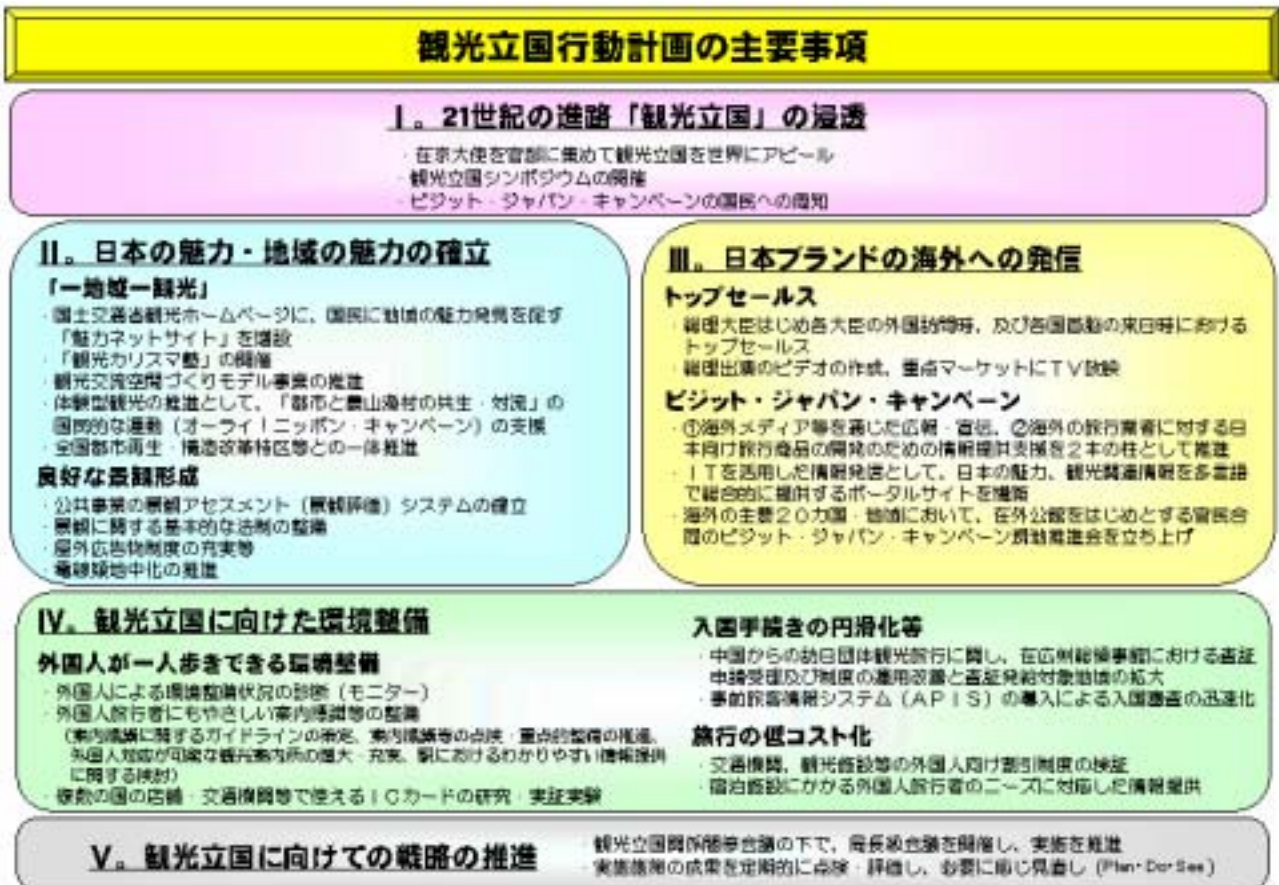


図1 観光立国行動計画の主要事項 首相官邸ホームページ (<http://www.kantei.go.jp/>) より引用

### 5.3 Youkoso!Kanagawa の基本方針

Youkoso!Kanagawa はスイスの観光政策をモデルにしている。これは、生徒や教師に「スイスとオーストリアではどちらが観光立国というイメージがあるか。」と質問をしたところ、9割以上がスイスと回答したからだ。しかし、実際には観光資源の種類はオーストリアの方が多い。スイスが観光立国だというイメージを作っているのは、その観光政策にあると考え、「スイス政府観光局公式ホームページ」や旅行ガイド等を調べた。

私見ではあるが、スイスの観光政策の柱は交通網の整備と地産地消であると考え、この二つを校区観光化プロジェクトの基本方針とした。

### 5.4 めざす生徒像から

金川中学校では、めざす子ども像として、次の四つを掲げている。

- 自ら課題を見つけ、問題の解決に向けて、進んで学ぶ生徒
- お互いの違いを認め、自分や他人を大切にする生徒
- お互いの違いを認め、自分や他人を大切にする生徒
- 健康な身体を自ら作っていきこうとする生徒

Youkoso!Kanagawa は、これらのめざす生徒像に鑑みて行うものである。

#### 5.4.1 問題の解決に向けて、進んで学ぶ生徒

これまでの問題解決型学習において生徒に成就感をもたせてきたのは、アンケート結果による励まし、聴衆からの拍手、生徒自身が「できた」と感じる達成感などであった。それらによって生徒のセルフエスティームの高まりが見られたことは成果である。しかし、「問題解決」という観点からすると、何をもって問題解決できたと生徒たちに実感させることができたかという点については、明確な規準をもつことができていなかった。

Youkoso!Kanagawa では、金川校区への観光目的の訪問者数という明確な規準(目標)を設定することによって、目標達成への実感(問題解決の実感)をもたるとともに、数値で表される真の目標達成の難しさを実感させることができると考える。

#### 5.4.2 自分や他人を大切にしている生徒

Youkoso!Kanagawa は、系統付けられた分業による問題解決型学習である。系統付けられた分業システムを設定することによって、生徒一人一人の責任範囲が明確になり、生徒は自分の責任を実感しやすくなる。さらに、生徒一人一人の責任範囲が明確になった中で、チームとして協力し、励ましあいながら取り組むことが、この学習においては要求される。

このようなことから、学習を通して、お互いの違いを認め、自分や他人を大切にしている生徒を育成することができると考える。

#### 5.4.3 ふるさと金川に誇りを持つ生徒

Youkoso!Kanagawa で、校区の観光化に取り組むことは、そのまま「ふるさと金川に誇りを持ち、学級・学校・地域を自分たちの手で良くしていこうとする生徒」の育成につながるものである。観光目的での金川校区訪問者増加を目標とした学習に取り組むことを通して、校区の良い面やすばらしさを再認識することができると考える。また、校区の観光化に取り組むことは、まさに地域を自分たちの手でよくしていこうとする活動である。

#### 5.4.4 健康な身体を自ら作っていかようとする生徒

Youkoso!Kanagawa では、自転車でもわる観光モデルコースを設定したり、ウォーキング大会を開催したりする。このことを通して、生活の中に積極的に運動を取り入れ、健康な身体を自ら作っていかようとする生徒の育成を図る。

### 5.5 生徒の実態から

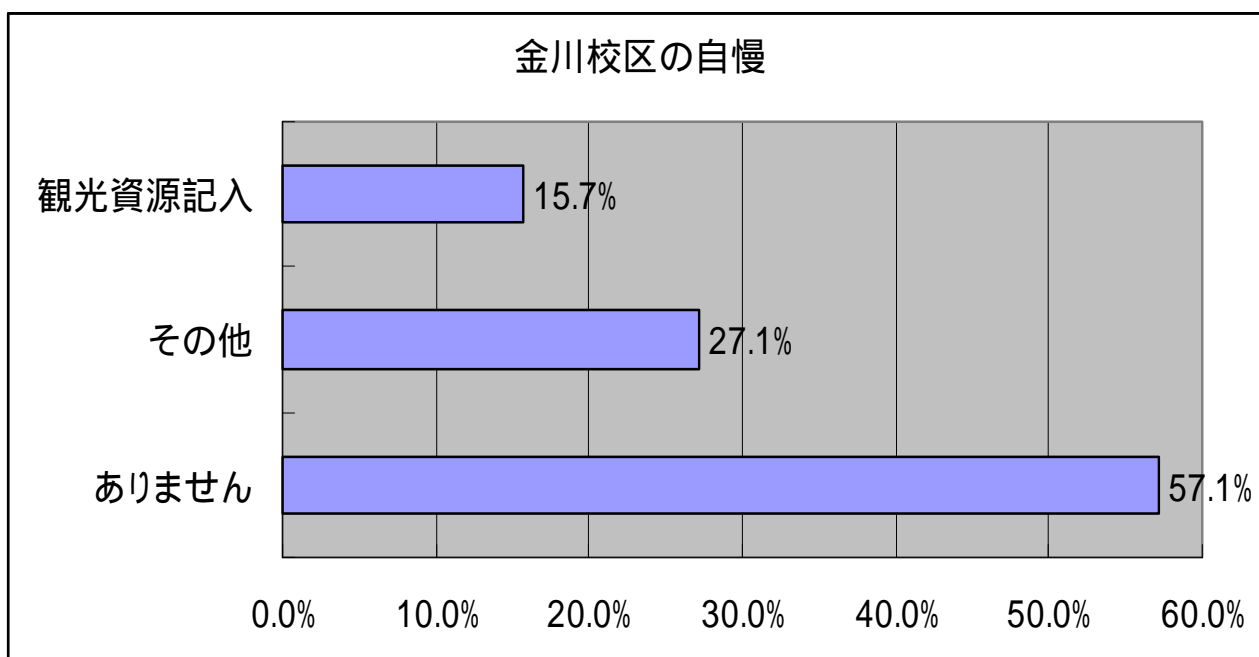


図2 金川校区の自慢に関するアンケート(平成18年4月)

校区観光化プロジェクトを始める直前の平成 18 年 4 月 20 日に、校区にどんな自慢できるものがあるかについて、この学習を行う 2 年生全員にアンケートをとった。その結果、57.1%の生徒が「ありません」と答えており、観光資源について回答した生徒は 15.7%であった。また、「人がやさしい」等、その他の回答をした生徒は 27.1%であった(前頁図 2)。この結果から、ほとんどの生徒が金川校区には自慢できる観光資源はないと考えていることが分かる。

#### 5.6 株式会社組織を模した組織の導入

本研究では、模擬会社組織の導入によって、系統付けられた分業システムを設定する。これによって、生徒一人一人の責任範囲が明確になる。また、必要に応じて、各部を横断的に組織したマトリックス型組織とすることで、チームとして協力し、励ましあいながら取り組むことが、この学習においては要求される。

#### 5.7 数値目標の導入

本研究では、金川校区への観光目的の訪問者数という明確な規準(目標)を設定することによって、目標達成への実感(問題解決の実感)をもたるとともに、数値で表される真の目標達成の難しさを実感させることができる考える。

#### 5.8 検証方法

##### (1) 成果物による検証

Web ページ等の成果物によって、知の組織化を検証する。

##### (2) SWOT 分析による検証

学習の初期段階と終末段階に生徒が行った SWOT 分析を比較することによって、問題解決能力の高まりを検証する。

##### (3) 業績の自己評価によって成就感を検証する。

### 6 平成 18 年度の取り組み

#### 6.1 模擬会社組織

基本的に取締役会が活動の決定権をもつ模擬会社組織とし、その下に企画部、営業部、広報宣伝部を置いた。企画部では、趣意書・顧客アンケート・ホストファミリー募集・中古自転車募集などの文書作成、活動の企画・立案等及び Web ページ作成を行った。営業部では、金川農協や JTB 九州飯塚支店などの団体や企業への協力依頼活動、アンケートの回収、観光ガイド、Web ページ作成等を行った。広報宣伝部では、金川観光モデルコース作成や、ポケットティッシュの図柄作成・ポケットティッシュ配布等を行った。

また、韓国の中学生の修学旅行受け入れでは、準備期間が短かったためプロジェクトチームを編成した。このほかにも、同時に複数の目的がある場面ではマトリックス型組織の長所を生かしプロジェクトチームを編成した。

#### 6.2 観光化の起点とレンタサイクルの設置

観光化の起点とした金川農協にレンタサイクルを設置した。ここには看板を設置した。看板には、「Youkoso!Kanagawa」の趣旨と連絡先を明記し、来訪者が自由にレンタサイクルを使用できるようにした。観光ガイド活動でも、このレンタサイクルを利用した。

#### 6.3 観光客へのアンケートとシンボルキャラクターの製作・設置

金川農協に観光客へのアンケートを設置した。この結果、観光目的での金川校区来訪者数は 102 名であった。これを月別に見ると次頁表 1 のようになった。

表1 金川校区への観光目的での来訪者数

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
来訪者数	5	57	27	1	0	2	8	0	2

7月には韓国の中学生の修学旅行を受け入れをし、8月と12月には、生徒が観光ガイドをするキャンペーンを実施した。イベントを実施した月の来訪者数が多くなっていた。ただし、韓国の中学生以外は、市役所や県庁の方が視察で来訪した数が多く、純粋な観光目的ではないという問題もあった。

#### 6.4 Web ページの作成と公開

Web ページ作成に当たっては九州工業大学情報工学部の学生にアシスタント・ティーチャーとして技術支援をしていただいた。ページや部分ごとに会社組織に則って割り当てた生徒が内容を考えて下書きした。それをアシスタント・ティーチャーが支援して作成した。

#### 6.5 広報宣伝用ポケットティッシュ及びリーフレット作成と配布

広報宣伝のために北九州空港でポケットティッシュとリーフレットを配布し、JTB 九州飯塚支店に設置した。

#### 6.6 フィールドワークと聞きとり学習

夏休みには金川校区の観光資源について知るために、「あんずの里」等のフィールドワークを実施した。また、あんずの里を作った方からの聞きとり学習を実施した。

#### 6.7 生徒による金川校区観光ガイド

「あんずの里」等をテーマにした生徒による観光ガイド活動を実施した。JTB 九州飯塚支店の営業担当の方にゲストティーチャーとして来ていただき、観光ガイドの心構えと挨拶やガイドの仕方などを学習した。本番では、多くの来訪者の前で、観光ガイドをすることができた。

#### 6.8 ラジオで放送する

NHK福岡放送局のアナウンサーにゲストティーチャーとして来ていただき、ラジオ番組制作についての学習を実施し、ミニ FM ラジオ「Youkoso!FM Kanagawa」を放送した。

#### 6.9 他県校とのテレビ会議の実施

金川校区の特産物や観光スポットを紹介するためのテレビ会議を行った。実施した相手校は、以下の通りである。

- 兵庫県立西宮今津高等学校
- 宮崎県西米良村立村所小学校
- 大分県日出町立日出小学校

## 6.10 生徒によるウォーキング大会の開催

平成 18 年度から初めた Youkoso!Kanagawa であるが、取り組みの 2 年目の平成 19 年度は、観光目的の来訪者数が激減した。韓国からの修学旅行生が来なかったこと、市役所や県庁の方の視察がまったくなかったことがその原因であった。8 月終了時点の観光目的の来訪者数が、わずか 7 名であった。そこで、新たな観光目的の来訪者を集める方法として、ウォーキング大会を開催した。日本ウォーキング協会の指導員の方をゲストティーチャーにお招きして、大会開催のノウハウ等について学ぶなどの取り組みの結果、ウォーキング大会では 83 名の参加者を募ることができた。

## 7 上月スポーツ・教育財団研究助成後 2 年間の取り組み

### 7.1 平成 20 年度の取り組み

#### (1) 組織作り

4 月 18 日に、どのような活動に関わっていきたいかのアンケートをとり、アンケート結果から組織作りを行った。企画部、営業部、広報宣伝部に加えて、研修部を設置した。決定した組織は図 3 の通りである。

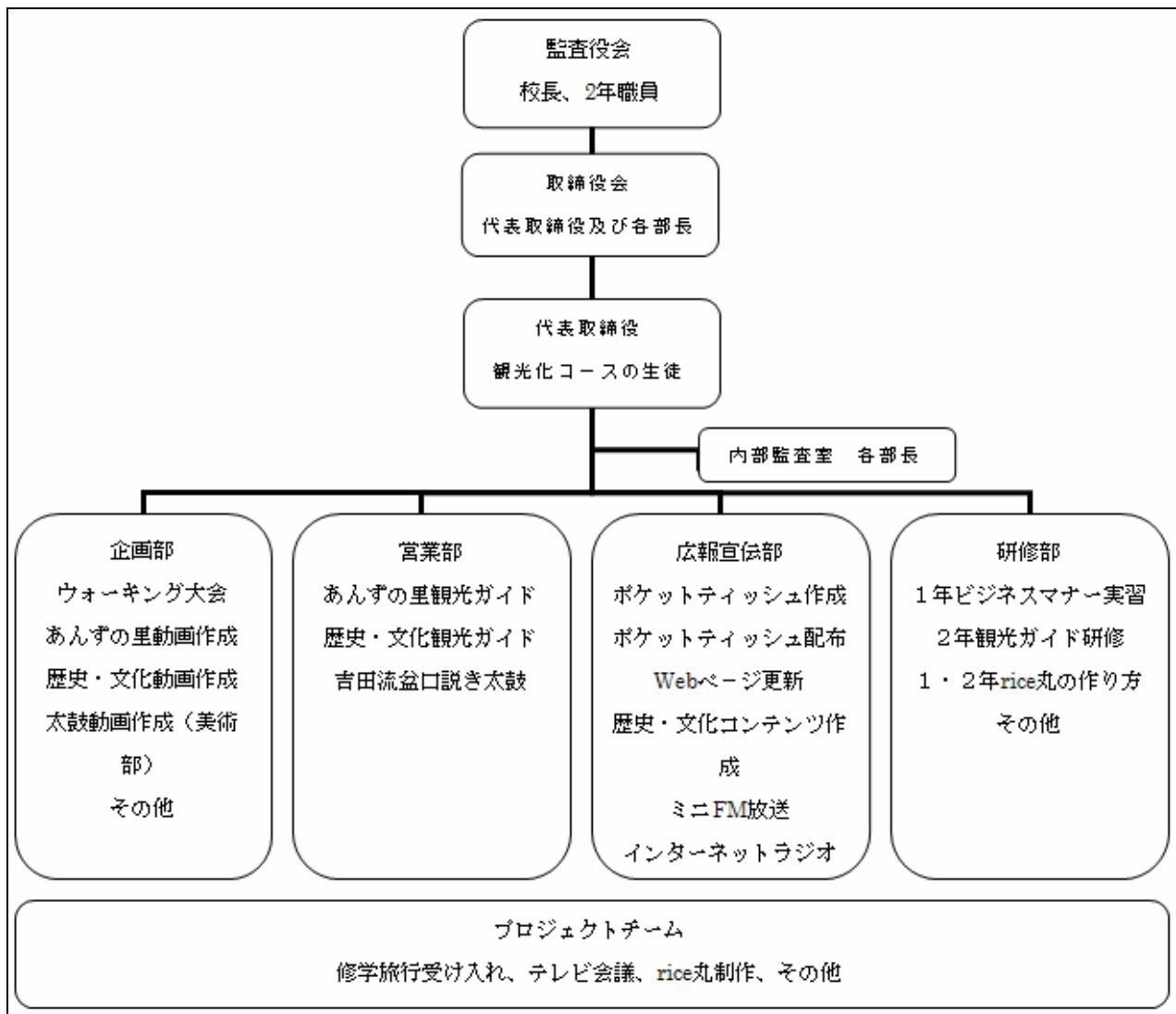


図 3 組織図

(2) KJ法と事業検討シートの活用

生徒から出されたアイデアのグループ分けおよび抽象化を通して、ウォーキング大会のテーマを決定する場面でKJ法を活用した。

事業検討シートとは組織マネジメントの手法の一つで、縦軸に効果の大小、横軸に難易度をとって、どの事業(活動)を行うべきかを検討するシートである。生徒から出されたアイデアの重み付けをする場面で事業検討シートを活用した。

25名の生徒からブレインストーミングで出されたアイデアの数は163であった(企画部:33、営業部:41、広報宣伝部:48、研修部41)。これらのアイデアを部ごとにKJ法を活用してグループ分けを行った(図4)。この結果、30のグループに分けられた。この30のグループを取締役会で抽象化し、「宣伝」「寄付」「コース」「サービス」「安全」「お楽しみ」の6つにまとめた。抽象化したものから、テーマの原案を「enjoy & ふれあい」とした。この原案は生徒全員に提案され、承認された。

事業検討シートを活用した結果、最も容易且つ効果も最大の部分に生徒が挙げたものは次の通りである(数字は人数)。

- ・プレゼント(5) ・参加者と話す(14) ・ごみ拾いをする(9) ・太鼓(11)
- ・携帯のGPS機能を使う(11) ・コースを変える ・飲み物のサービスを増やす(7) ・出店
- ・インターネットに画像を載せる ・広告(3) ・出し物を出す(2) ・サービスを増やす(9)
- ・カラオケ大会(3) ・スポーツ ・宣伝(3) ・バイキング ・豚汁(4) ご飯(4) ・寄付(3)
- ・安全に配慮する(6) ・ふれあい(5) ・観光案内板(3) ・俳句を作ってもらおう ・抽選会
- ・参加者への配慮 ・かざりつけ ・豚汁以外にも何か出す(2) 炭坑節(2)

これらについて、予算、機材、テーマ等に則しているかを規準にして話し合い、「カラオケ大会」「スポーツ」「バイキング」は実施しないこととなった。



図4 KJ法によるグループ分け



(3) 外部講師等の活用による学習

Web ページ及び文書作成等支援

学習期間:6月4日～6月18日

アシスタントティーチャー:九州工業大学情報工学部学生

対象:金川校区観光化コース生徒

金川校区観光化プロジェクトの Web ページ作成やウォーキング大会の大会要項やリーフレット等の文書作成を九州工業大学情報工学部の学生にアシスタントティーチャーとして支援していただいた。



図5 大学生による Web ページ作成支援

観光ガイドについての講演と実習

学習日:7月17日

講師:JTB九州飯塚支店 城島 輝明 様

対象:金川中学校2年生全員

8月に生徒が行う観光ガイド活動をするにあたって、観光ガイドの心構えと実際について、JTB九州飯塚支店の方に講演と実習をしていただいた。

講演では、心構えとあいさつの仕方、お客様への接し方などを話していただき、実習では、お客様へのあいさつとガイドを営業部の生徒が行い、講師の方にアドバイスをいただいた。

平成20年度は、8月の観光ガイド活動及び、10月に行ったウォーキング大会でもこー上で生徒が観光ガイドを行った。生徒のガイドに対して参加者からは拍手と歓声が上がった。

ウォーキング出前講座とウォーキング大会開催

学習日:5月27日

講師 北九州ウォーキング協会 五貫 直彦 様

北九州ウォーキング協会 則松 彰 様

対象 金川中学校 2 年生 全員

ウォーキング大会を開催するにあたって、ウォーキングとは何かということと、ウォーキング大会を開催するまでの日程や準備等について、北九州ウォーキング協会の方に講演をしていただいた。

生徒は、ウォーキングの社会的意義と目的、ウォーキングコース作り方、運営組織及び業務担当の決め方、ウォーキング大会開催までの日程などについて、学習することができた(図6)。出前教室を受けて取り組んだ内容は以下の通りである。

大会要項と大会チラシの作成

後援及び協賛団体の決定と依頼

ウォーキングコースの下見と決定

大会で配布する資料の作成

テレビ出演などによるアピール活動

この出前教室を受けて、生徒が後援依頼を行った。後援団体は以下のとおりである。

田川市、田川市教育委員会、筑豊ボクシングジム、株式会社平成筑豊鉄道  
福岡県ウォーキング協会、金川中学校父母教師会、金川校区活性化協議会

平成 20 年度は、資金調達(廃品回収やリサイクルバザー)、コースの下見なども、すべて生徒が行った。日本ウォーキング協会 Web ページでの大会案内の掲載や福岡市での大会案内の配布、テレビ出演などによるアピール活動等によって、前回を上回る91名の参加者を募ることができた。また、地域の農家や農協との連携による、パブリカやアスパラなどの特産物の販売も参加者に好評であった。

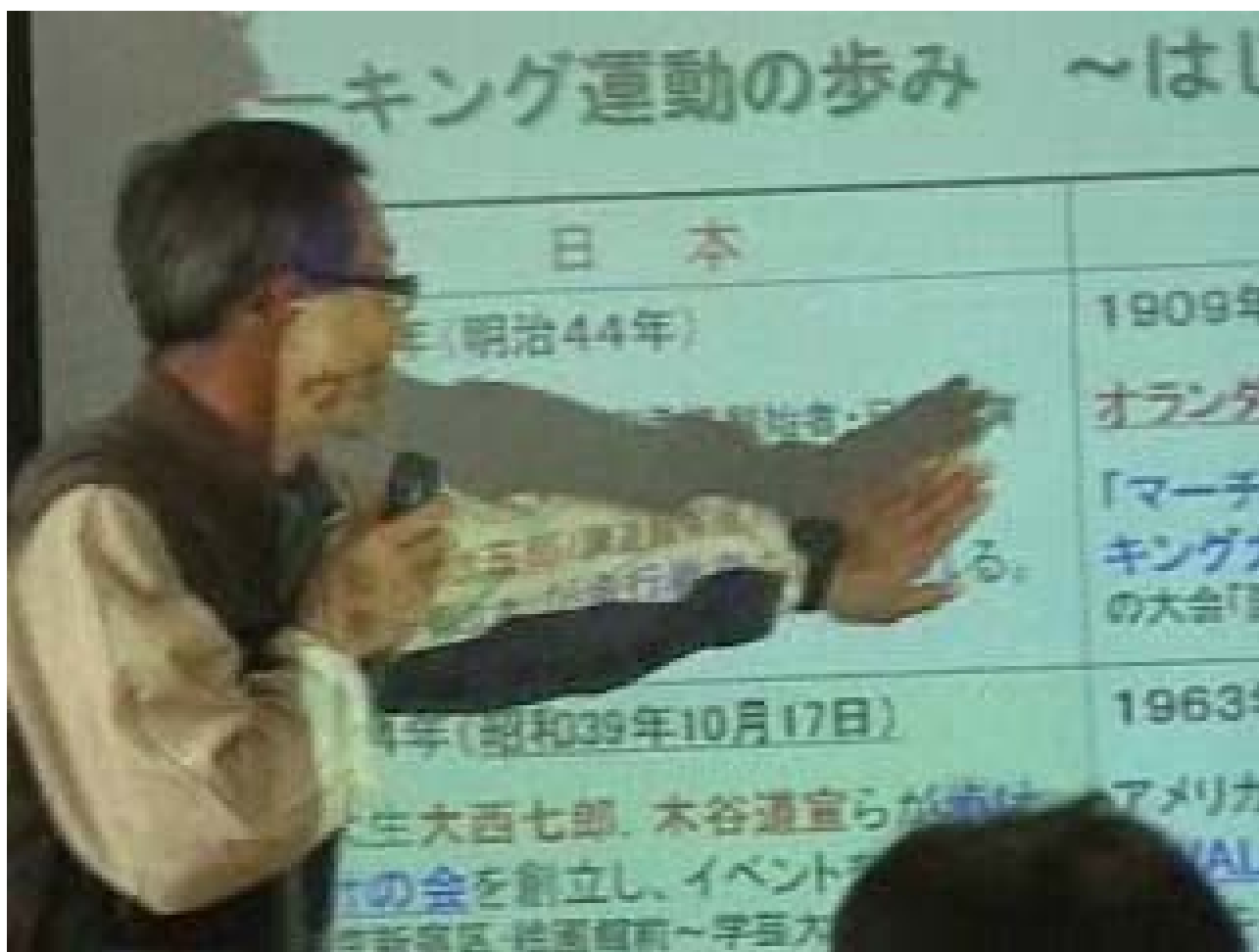


図6 ウォーキング出前講座

### 地域 SNS の導入に関する留意点や運用の実際等について

学習日:8月16日

講師:伊丹市立伊丹高等学校 畑井 克彦 先生(地域情報化アドバイザー)

対象:金川校区観光化プロジェクト SNS を使用する団体の代表

九州工業大学、田川市、株式会社平成筑豊鉄道、田川市立金川中学校

平成 20 度は九州工業大学のご協力で SNS を導入した。導入に当たって「いたまち SNS」の活用で実績がある畑井克彦先生に留意点や運用の実際等について講演をしていただいた。

### 観光化プロジェクト SNS についての講演

学終日:9月9日

講師:九州工業大学 学生 松枝 由紀子 様

対象:金川中学校おやじの会会員

システム開発者である九州工業大学学生の松枝由紀子様にご講演をしていただいた。しかし、実質的に使用できた期間が1ヶ月程度と短期間であったため、有効活用には至らなかった。

### GPS ロガー活用についての講演

学習日:9月8日

講師:東和大学 教授 若菜 啓孝 先生

対象:金川中学校2年生全員

生徒主催のウォーキング大会当日には、若菜先生も参加していただき、ウォーキングコースのデータを提供していただいた。このデータを生徒が Google Earth を活用して、Web ページに掲載している。

### (5) 映像コンテンツ作成学習

校区の観光資源である岩屋鍾乳洞や夏吉古墳を紹介する DVD や地域の特産物であるパプリカを使ったパプリカジャムの作り方を紹介した CD を生徒が作成した。

### (6) ミニ FM ラジオ「Youkoso!FM Kanagawa」放送

2年生生徒を12のグループに分けて、各グループが1つのミニ FM ラジオ放送を行った。放送内容はインタビューが中心であった。インタビュー内容は、特産物のパプリカを使った調理法や金川校区の観光スポットについてであった。

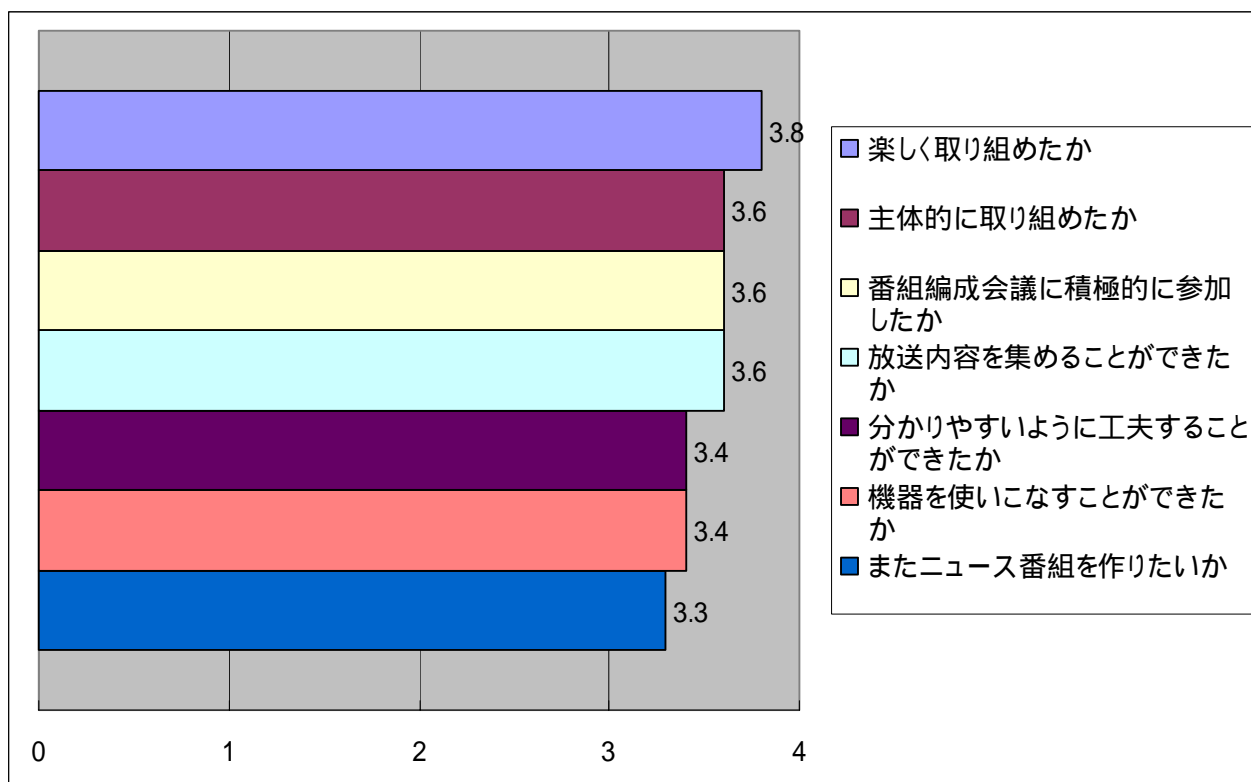


図7 放送終了後の生徒へのアンケート結果

前頁図7は、放送終了後に生徒たちに行ったアンケート結果の平均である。4段階の自己評価の平均がすべて「3」以上である。このことから、生徒たちが楽しく、主体的に学習に取り組み、情報の収集・加工、機器の操作なども円滑に行うことができたことが分かる。

## 7.2 平成21年度の取り組み

### (1) 第3回来てみんな！金川ウォーキング大会の開催

平成21年度は、Youkoso!Kanagawaの内容を絞り込む必要に迫られた。Youkoso!Kanagawaを中心になって推進してきた教師の異動があり、さらにYoukoso!Kanagawaを担当する2年生の生徒数が大幅に減少したからである。

このため、これまで行ってきた観光ガイドキャンペーンを廃止し、すべての活動を「第3回来てみんな！金川ウォーキング大会」に盛り込むことにした。これは、安易に取り組みの内容を削減したのではなく、取り組む内容を選択し、その活動に集中するためである。平成20年度には、ウォーキングコース上で行った観光ガイドも、第3回大会では行わず、案内の看板等を設置することで対応した(図8)。



図8 案内看板

しかし、参加者が安全に楽しくウォーキングをするための、道路整備及び清掃活動は地域を巻き込んで徹底して行った。また、休憩所で参加者に配った「あんず酒」には、あんずの里の由来を詳しく紹介したり、フレットを添えるなどして、地域の観光資源の発信を行った。

#### 外部講師の活用による学習

前年度、ウォーキング大会を担当した教師及び日本ウォーキング協会の指導員をゲストティーチャーとして、ウォーキング大会開催の心構えやノウハウ等について学習した。ウォーキングのマナーや大会開催までの取り組みなどに加えて、特に前年度ウォーキング大会を担当教師からは、参加者に対する「お

もてなしの心」が、前回大会の課題だったことが強調された。これを受けて、第3回来てみんな！金川ウォーキング大会は、「おもてなし」を合言葉に進められた。前述のあんず酒を配る活動も、「おもてなし」の一つとして行われた。あんず酒を渡された参加者の「ありがとう」に、「ありがとうの言葉にこんなに泣けてくるなんて」とは、あんず酒を配った生徒の言葉である。また、参加者の一人は「あのあんず酒を配りながら泣いてた女の子、あんな子がいるなんて。感激してもらい泣きました。」と語ってくれた(図9)。

前年度のウォーキング担当の教師がゲストティーチャーとして語ることで、課題を年度をこえて引き継ぐことができた。



図9 ウォーキング大会であんず酒を配る生徒

#### 行政との連携による学習

平成21年度のウォーキング大会は、これまでのウォーキング大会と大きくコースを変更した。「ロマンスヶ丘」と呼ばれる小高い丘をコースに入れることになった。ロマンスヶ丘からは、田川市が一望でき、絶景を楽しむことができるからだ。ロマンスヶ丘に登る最後の山道が草や笹で狭くなっていることと、近くにあるキャンプ場のトイレが破壊されていて使用できないことから、平成20年度までは、コースに入れられていなかったのである。そのほかにも、下り坂に落ち葉が積もっていて滑りやすいことなども、コースに入れられていなかった理由の一つである。道路整備や清掃活動は、前述の通り、地域を巻き込んだ活動によって行ったが、破壊されたトイレについては、生徒達の力ではどうすることもできなかった。そこで、キャンプ場を管理する田川市に、キャンプ場のトイレについての嘆願書を書いて、生徒の代表がお願いに行き、対応していただいた。

#### (2) 「中高生のための観光化マニュアル」の作成

Youkoso!Kanagawaの最大の課題は、この取り組みを継続させることと、一般化させることである。組織マネジメントの手法やウォーキング大会開催のためのノウハウなどが、Youkoso!Kanagawaを行うためには必要

となってくる。

この課題解決のために「情報活用能力・問題解決能力を高める中高生のための観光化マニュアル」を作成した。下は作成した観光化マニュアルの目次である。第 3 回来てみんな！金川ウォーキング大会はこのマニュアル(原稿段階のもの)を参考にして取り組みが進められた。目次のみを示す。

はじめに
観光立国を目指す日本
郷土を愛する心を育てる
情報活用能力を高める
問題解決能力を高める
模擬会社組織
・ 通常ของบริษัท組織
・ マトリックス型組織
環境分析をする
・ SWOT 分析
趣意書を作成する
年間計画を立てる
活動内容を検討する
・ ブレインストーミングと KJ 法
・ 事業検討シート
ホームページを作成する
・ ホームページ作成の手順
・ アシスタントティーチャー
観光ガイドをする
ポケットティッシュでアピールする
動画を作成する
ミニ FM 放送で地域にアピールする
ウォーキング大会を開催する
・ ウォーキング大会とは
ウォーキング大会を開催する
・ ウォーキング大会開催までの日程と準備
ウォーキング大会を開催する
・ ウォーキング出前授業
・ GPS ロガーの活用
プレゼンテーションをする
テレビ会議をする
地域や企業・団体と連携する
・ 聞き取り学習をする
地域や企業・団体と連携する
・ 後援のお願いをする
ビジネスマナーを身につける
研究分担者及び助言者
参考文献
あとがき

## 8 知の組織化による成果物

研究による成果物は以下の通りである。

ア 金川校区観光化プロジェクト Web ページ(図 10)

URL <http://kyouiku.joho.tagawa.fukuoka.jp/HPKNGC01/kanagawa/index.html>

イ 金川校区観光化プロジェクトリーフレット

ウ 第 2 回来てみんな！金川ウォーキング大会の大会要項及びチラシ

エ ウォーキングコースマップ等のウォーキング大会関連文書

オ コンテンツ「パブリカジャムの作り方」

カ 動画 DVD「岩屋鍾乳洞・夏吉古墳体験レポート」

キ 動画 DVD「原田のおいちゃん」

ク GPS ロガーを活用したウォーキングコースのコンテンツ(Google Earth 使用)

ケ 金川校区観光化プロジェクト SNS

コ 動画 DVD「奇跡のウォーキング」

サ 「あんずの里」紹介リーフレット

シ 情報活用能力・問題解決能力を高める中高生のための観光化マニュアル



図 10 Youkoso!Kanagawa の Web ページ

## 9 生徒の問題解決能力の高まり

取り組みの初期と終末期に SWOT 分析を行い、比較することによって、生徒の問題解決能力の高まりを検証した。

取り組みの初期と終了時に行った SWOT 分析を比較すると、すべての項目において生徒が挙げた個数

が増えている。(図 11)

終了時の方が、生徒が的確に環境分析を行えるようになってきているのがわかる。環境分析が的確にできることによって、問題を把握し、問題解決のための適切な改善策を考えることができるようになる。このことから、生徒の問題解決能力が高まったと考えられる。

また、図 2 で校区の観光資源を挙げていた生徒が 15.7%だったことと比較しても生徒の問題把握能力の高まりが確認できる。内部環境の強みは、そのほとんどが校区の観光資源を挙げていたからである。

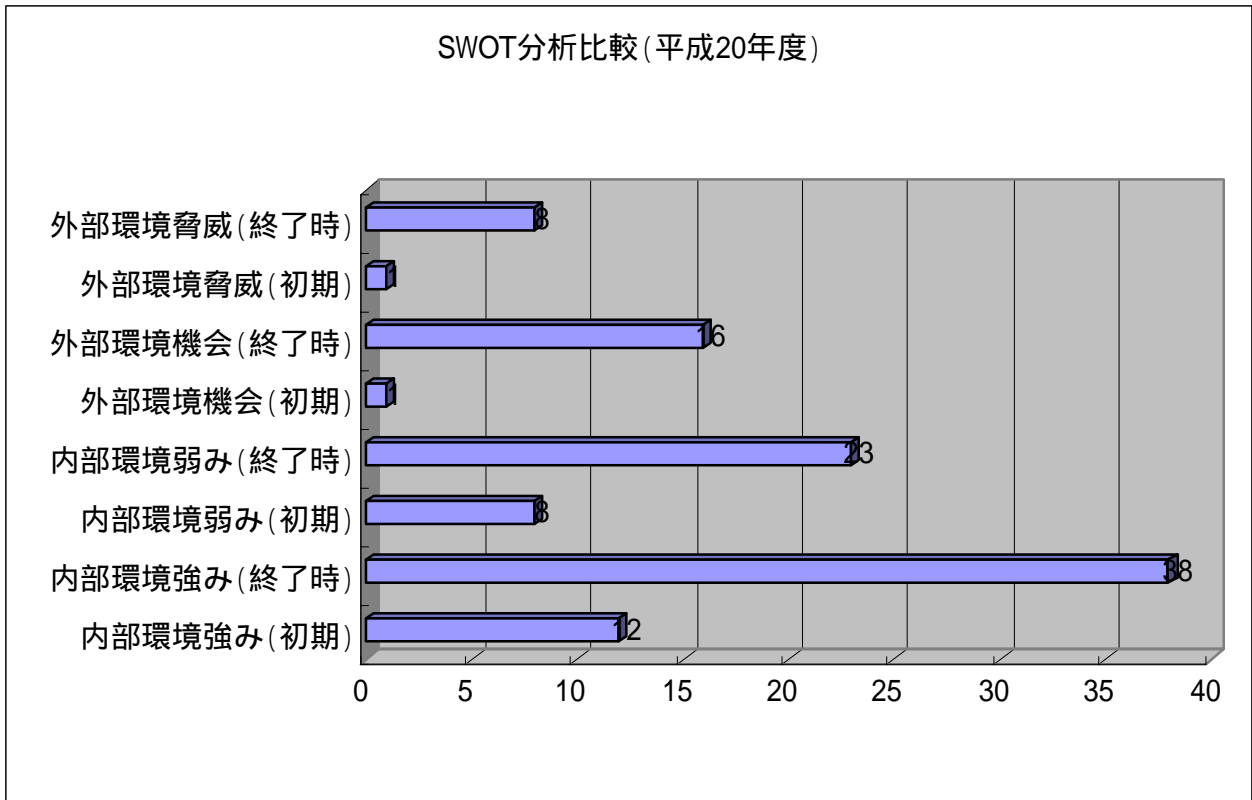


図 11 SWOT 分析比較のグラフ (平成 20 年度)

#### 10 生徒の成就感について

次頁図 12 は、平成 20 年度の金川校区への観光目的の来訪者数が 91 名であったことに対する、生徒の自己評価の平均である。4 段階のアンケートで平均が「3.09」であることから、生徒が高い成就感を得ていることが分かる。

また、平成 21 年度のウォーキング大会についても生徒及び指導した教師とウォーキング指導員の方の言葉から、生徒が成就感を感じていることが分かる。

「ありがとうの言葉にこんなに泣けてくるなんて。」(K 女)

「人からほめられることがこんなにうれしいとは思わなかった。」(Ka 女)

「とてもがんばった仕事のあとの飯はうまかった。自分が立てた看板が人の役に立ったから嬉しい。」(K 男)

「落ち葉のそうじを手にマメができるくらいがんばりました。作業がないときも自分にできることはないかとさがしていました。自分が考え自分が行動するというを自分なりにがんばりました。」(T 男)

「生徒がしたことへ何かと感激して、よく涙を流していました。生徒もさぞかしやる気が出たと思います。」

(H 先生)

「君たちがしたことすごさは、見えない部分だ。トイレの設置、ゴミ拾い、落書き消し、落ち葉はわき、当日来られた方達が、何も気づかない部分だ。」(C 先生)

「各自が最後まで自分の持ち場を全うするのを見た。そして、感動した。初めて参加した多くの友人がこう言った。この大会に誘ってくれてありがとう。素晴らしい。楽しい一日を過ごさせてもらった。地域のおじさんの



にこやかな笑顔にきらりと光るものを見たのは自分だけであろうか。」(ウォーキング指導員 N さん)

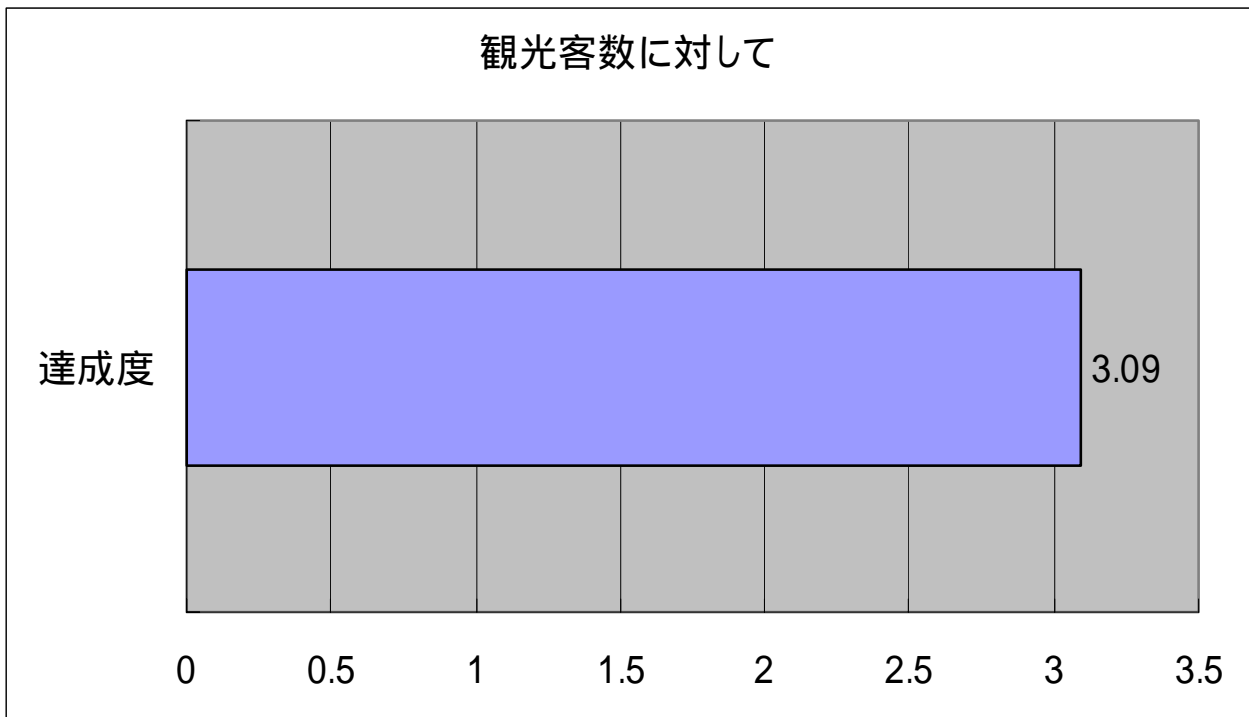


図 12 観光客数に対する生徒の自己評価

## 11 考察

### 11.1 知の組織化について

#### (1) 模擬株式会社組織による知の組織化

本学習は、基本的に模擬株式会社組織の部署ごとに系統付けられた分業システムによって進めた。完成した Web ページは、個々の生徒の知を組織化した成果物であるといえる。

#### (2) ゲストティーチャー活用による知の組織化

本研究では、九州工業大学情報工学部の学生や北九州ウォーキング協会の方々をはじめとして、たくさんの方々にゲストティーチャーとして、専門的な知識や技術を教えていただくことができた。Web ページ作成やウォーキング大会開催、FM ラジオ番組制作等は、その知識や技術を習得するだけでも多くの時間を必要とするものである。これらの活動を並行して行うことは、ゲストティーチャーの活用なしには不可能と思われる。Web ページ作成やウォーキング大会などの様々な学習活動を行うことができたことが、ゲストティーチャー活用による知の組織化の成果と考える。

### 11.2 成就感をもたせる問題解決型学習について

本研究では、観光目的の来訪者数という数値目標を設定した。ベストケース 150 人、中間ケース 100 人、ワーストケース 50 人とするものである。100 名には届かなかったもののワーストケースの数値目標を達成したことで、ある程度問題解決できたと生徒が判断し、成就感が得られたことが図 11 及び図 12 から読み取れる。

## 12 研究の成果と課題

本研究の成果として、次のことが挙げられる。

模擬会社組織の導入やゲストティーチャー等の活用によって、知の組織化を図る指導の一方法を示すことができた。

Web ページ作成等のコンピュータ活用や組織マネジメントの手法を取り入れた環境分析・活動の検討等によって問題解決型学習の指導の一方法を示すことができた。

数値目標を導入することによって、生徒に成就感をもたせる問題解決型学習の指導の一方法を示すことができた。

課題としては次のことが挙げられる。

校区の観光化という学習そのものが多くの知識とノウハウを必要とするものであるため、その指導ができる教師が少ない。

#### 参考文献

- 1 文部科学省、高等学校学習指導要領、1999
- 2 首相官邸ホームページ、観光立国行動計画の主要事項、2003
- 3 国土交通省、国土交通省の観光政策、<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanko/index.html>
- 4 野中郁次郎、紺野登、知識創造の方法論(東洋経済新報社)、2003.4
- 5 スイス政府観光局:MySwiss.jp、<http://www.myswiss.jp/jp.cfm/home/>
- 6 豊瀬仁須、松田昇、中等教育総合的な時間における情報教育の実践、教育システム情報学会第33回全国大会論文集、2008
- 7 豊瀬仁須、中学校における情報機器を活用した表現方法の習得に関する研究、日本情報科教育学会第2回全国大会論文集、2009
- 8 豊瀬仁須、西野和典、校区観光化プロジェクトを通しての知の組織化、日本情報科教育学会第1回全国大会論文集、2008
- 9 豊瀬仁須、中学校における情報機器を活用した表現方法の習得に関する研究、日本情報科教育学会第2回全国大会論文集、2009
- 10 豊瀬仁須、松枝由紀子、若菜啓孝、畑井克彦、五貫直彦、則松彰、松田昇、西野和典、金川校区観光化プロジェクト、観光情報学会第1回研究会論文集、2009